

ECのコメ政策

—その現状と市場価格—

伊 東 正 一

1 はじめに

EC（ヨーロッパ共同体）域内の稲作はコムギやトウモロコシなどに比べ極めて少量の生産であり、いわゆるマイナー・クロップとなっている。また、域内ではコメに対しては完全自給がまだ実現していない作物として受け止められてきた。それだけに同じ穀物でもコムギやトウモロコシとは異なる政策がとられ、コメに対しては今日までECのCAP（共通農業政策）の中では世界の趨勢とは反対の増産政策がとられてきた。しかし一方で、輸入をしているが、生産コストが高いにも関わらず域内で生産された過剰な品質のものについては輸出も盛んに行っており、世界のコメ市場においてその影響は少なくない。

こうした中で、これまでの報告ではEkelmans; Peterson; Brownら; Harrisら; 小田などがあるが、これらの報告は全体的なCAPについては多くの説明があるもののコメ政策については具体的な説明が少ない。本論は刻々と変化する世界のコメ経済にかんがみ、EC域内のコメ政策について近年の状況を具体的なデータをもって解説するとともに、EC域内の生産者及び消費者の価格を報告し、グローバルなコメ経済の把握に資せんとするものである。

ところで、ECのコメ生産量、消費量、及び純輸入量を過去30年間にみると、図1の通りである。生産量は1960年代の終わりから増大の傾向にあり、また消費量も同様に増大してきている。一方、純輸入量は域内生産量の変化に伴って毎年、増減を繰り返している。ここ10年ほどは減少の傾向にあるが、年間の輸入量は50万トン前後と少なくない。また、域外への輸出量は

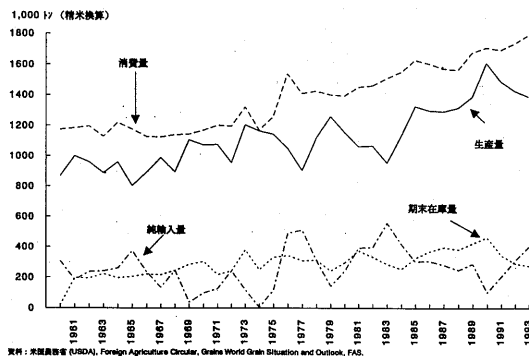


図1 ECのコメの生産、消費、期末在庫及び純輸入量

近年は30万トン前後で、小規模ながらも国際市場に参入している。

ところで、EC 域内の現在の生産国はその生産量の順にイタリア、スペイン、ポルトガル、ギリシャ、フランスの5カ国である。この中で、水の供給体制においてスペインのセビリア (Sevilla) 地方及びエクストラマドーラ (Extremadura) 地方が水不足の影響を大きく受けやすく、供給不安定の一因となっている。

ただ、コメの消費においては南部諸国 (主に生産国) と北部諸国 (英、仏、独、デンマークなど) では品質が異なっている。南部ではジャポニカ米やジャバニカ米が好まれる反面、北部ではインディカ米が好まれる。よって、コメ政策においても、近年では北部の消費国の意向を反映したものとなっている。また、量的にも自給がほぼ達成される状態となっており、今後は品質の改善により力が注がれる傾向になっている。

2 政 策

(1) 価格政策

EC の農業政策は CAP のもとに行われているが、コメもその例外ではない。EC の CAP は域内保護政策をとっている。この中で価格支持政策がとられており、市場介入価格 (Intervention Price) 及び実質買入れ価格 (Acquisition price)、目標価格 (Target Price)、そして境界価格 (Threshold Price) から成っている (図2)。市場介入価格と目標価格が各国の関係大臣レ

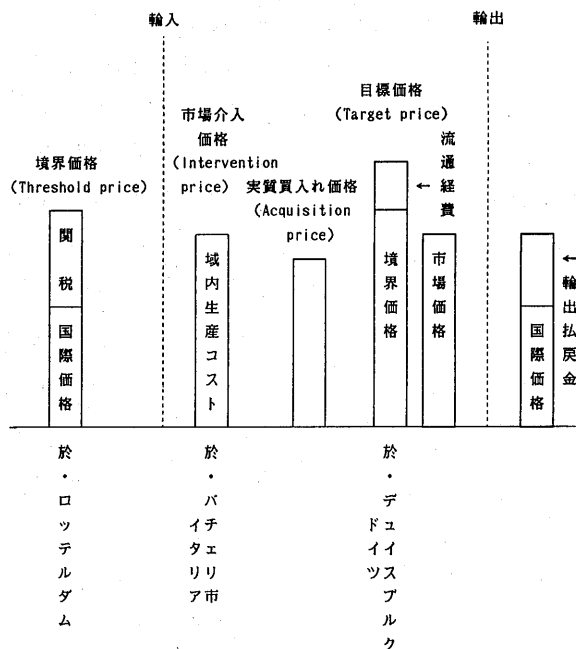


図2 ECの農業価格政策

ベルによる EC 閣僚理事会 (EC Council) の農業部門である農相理事会 (Agricultural Branch of the Council of Ministers) で決定され、境界価格は事務レベルによる EC 委員会 (EC Commission) で決定される。

まず、市場介入価格であるが、これは生産者に対する政府の最低支持価格となっている。基本的には農家の生産コストとして生産性の最も高いとされるイタリアのヴァーチェリ (Vercelli) を基準にモミ価格で設定している。品質及び品種の違いによりそれぞれの価格が設定してある。ただ、1987/88年度から市場介入価格より安い実質買入れ価格が導入され、それが政府の実質的な最低保証価格となっている。生産農家は少なくともこの実質買入れ価格で政府に対し販売することはできるわけだが、実際の買入れが行われるのは1月1日からとなっている。このため現金収入の必要な農家は市場価格が政府の実質買入れ価格より低い場合でも販売に踏み切ることがある。

目標価格は域内産米の生産コスト及び流通コストを合計したもので、EC 域内で生産しようとすれば需給の観点から最も不足している (most deficit) 地域が対象にされており、コメの場合はドイツのデュイスブルク (Duisburg) を基準に設定されている。また、玄米で積算しており、加工業者が支払う価格とされ、いわゆる日本の「消費者米価」に匹敵するものと解釈できる。この価格は生産費、非農業部門の賃金、需給事情などを総合的に判断して決定される (Peterson; 小田)。

境界価格は目標価格に対し、域内での流通コストを差し引いた額で、輸入米の国際価格 (ロッテルダム着港価格) とその差額との差が関税となる。つまり、域外からの輸入米に対する関税率の指標となっている。このようにして、コメの国際価格がいかに安くても域内産のコメが比較的有利に流通販売されることになる。この境界価格は玄米で積算してある目標価格をもとに積算し、玄米及び精米に対しそれぞれ表示されている (Ekelman; Ferran; EC Commission)。

また、域内で過剰となっている品質のコメは域外の市場において販売できるように補助金をつけて輸出される。つまり、域内の市場価格と国際価格の差が輸出業者に払い戻し金 (export refunds) として支払われる。単価は輸出相手国やその他の状況により異なる¹⁾。

EC の農業政策においてそれぞれの作物に対する部会 (穀物部会, Oilseeds 部会など19の部会) があるが、コメ部会もその中に独立して存在する。過剰生産の状況にある穀類や、油用豆類については、80年代後半にすでに市場介入価格の値下げ (30~35%) を実施しているが、コメは完全自給が達成されていなかったため、値下げされずに推移した。しかし、ここに来て自給への見通しがほぼついたので値下げが検討されている (Ferran)。EC におけるコメの年度は9月1日から8月31日までであるが、政府価格は翌年度のものが毎年決定される。1992/93年度及び1993/94年度における政府価格は表1の通りである。

市場介入価格は1993/94年度 (9月1日~8月31日) がモミ1トン当たり309.03ECUで、前年より1.3%値下がりをしている。また、実質買入れ価格は1988年以来、コメは品種に関係なく市場介入価格の94%であったが、1993/94年度からインディカ米 (後述の長粒種B) とそ

表1 ECのコメ1トンに対する政府価格 (ECU)

項目	1992/93年度	1993/94年度	玄米60kg 当たり円 ¹
市場介入価格 (モミ)	313.65	309.60	2,849
実質買入れ価格 (インディカ米)	294.83	291.03	2,678
(ジャポニカ米)	294.83	278.64	2,564
目標価格 (玄米)	545.52	530.60	3,906

¹玄米60kg当たりの日本円価格は為替レートを1 ECU = 122.7円とし、またモミから玄米の率を80%とした。

資料：全伊コメ協議会。

の他が区別されるようになった。つまり、北欧で需要が高く、逆に生産量が相対的に少なく、輸入しているインディカ米については94%の据え置きとなったが、その他のコメについては90%に引き下げとなった。価格はインディカ米が291.03ECU、その他が278.64ECUとなっている²⁾。つまり、域内で需要の高いものは生産を奨励し、余り気味の品種は価格を抑えるという方針である。

ところで市場介入の買い上げは、以前は年間を通じ、農家の希望に応じて行われていたが、1988年から政策が変わり、現在では1月1日から7月31日の期間に限って買い上げされることとなった。よって、収穫の始まる9月から12月31日までは、もし販売するとすれば自由市場で販売することになる。つまり、現金収入が12月31日以前に必要な場合や、農家が貯蔵施設をもっていない場合、あるいは市場価格が市場介入価格より高く、その後は下落すると予想される場合は年内に販売することとなる。

なお、実質買入れ価格は1月以降は毎月、倉庫料の分だけ上昇していく。1993年1月からはECが決めた実質買入れ価格の294.83ECUに対し、実際の政府の買い上げ価格は毎月0.7%上昇している。

目標価格は前述のように、EC域内で生産しようとするれば需給の観点から最も不足している (most deficit) 地域が対象にされており、コメの場合はドイツのデュイスブルク (Duisburg) で1993/94年が1トン当たり530.60ECUと前年度に比べ2.7%の値下げになっている。目標価格は消費者価格を目標においたもので、輸入米の関税率の設定に使用される。

この目標価格を基準に輸入米に対する境界価格が決定され、さらに関税の額が設定される。境界価格も毎月上昇するように設定してあるが、その上昇率は市場介入価格の上昇率より小さく、毎月0.5%弱の上昇率となっている。また、関税は国際価格の変動に応じて毎週設定される。1993年9月25日から1週間の関税は表2の通りである。関税そのものは、域内の市場介入価格を上回るほどに高い。それほど強力に国内生産を保護していることをこの関税率は物語っている。

政府価格は各国の通貨のレートの変化に対してはその変化に応じて同じ年度内においても逐

表2 EC域内におけるコメの関税と境界価格，1993年9月25日現在

項 目	関税 (ECU/t)	精米60kg 当たり, 円 ¹	境界価格
玄米			523.88
長粒及び中粒種			
モミ	379		
精米	627	4,616	766.09
短粒種			
モミ	360		
精米	491	3,615	697.00
碎米	167	1,229	281.91

¹精米60kg 当たりの関税は1 ECU=122.7円で日本円に換算した。

資料：Ferran, Joaquin (EC委員会のコメ部会)：ブリュッセルのEC本部で聞き取り調査，1993年9月24日，及びEC Commission: Ecomission Regulation (EEC) No 2091/93, Official Journal of the European Communities, July 30, 1993, pp. No L 190/10-190/11.

次換算される。このレートの変化に応じた換算方式は1992/93年度から適用されている。例えばイタリアでは1993年1月1日から1 ECU当たり2,087.00リラのレートでスタートしたものが，10日後の1月11日からは同2,133.00リラ，3月2日からは同2,156.72リラというふうに変化している。

(2) 品質政策——コメの種類と品種

ECでは先に示したように長粒種の中にAとBの2種類があり，そして中粒種と短粒種がある。それらの定義は次の通りである。

長粒種=長さが6ミリを越えるもの

長粒種A (Long A)：長粒種の中でタテとヨコの比が2.0より大きく3.0より小さいもの

長粒種B (Long B)：長粒種の中でタテとヨコの比が3.0以上もの

つまり長粒種Bは長いだけではなく長粒種Aよりスリムということがいえる

中粒種 (Medium) =長さが5.2ミリを越え，6.0ミリ以下のもの。かつタテとヨコの比が3.0未満のもの

短粒種 (Short) =長さが5.2ミリ以下で，タテとヨコの比が2.0以下のもの

これらを整理すると表3のようになる³⁾。

ところで，1992年産イタリアの作付面積は261,410haで，このうち長粒種Aに属する品種の作付面積が81,873haと最も多く，次に中粒種 (61,285ha)，短粒種 (48,570ha)，長粒種B

表3 ECにおけるコメの長・中・短の定義

種類	タテの長さ	タテとヨコ比
長粒種		
A	$A > 6.0$ ミリ	$A < 3.0$
B	$B > 6.0$ ミリ	$B \geq 3.0$
中粒種	$5.2 \text{ミリ} < \text{中} \leq 6.0 \text{ミリ}$	$2.0 < \text{中} < 3.0$
短粒種	$\text{短} \leq 5.2 \text{ミリ}$	$\text{短} \leq 2.0$

資料：全伊コメ協議会稲作研究所。

(24,682ha)の順となっている。また、長粒種A及びBで全面積の約半分を占めている。品種別では、特に、長粒種Bに属するThaibonnet (L202)が2万haを上回り、長粒種Bの8割強を占めている。これは1品種の作付面積では第1位のLido (中粒種)、第2位のBalilla (短粒種)に次いで第3位となっている。(イタリアの1992年作付面積は1990年の215,442ha、1991年の206,345haを経て、史上最高の面積となった。)

EC政府が奨励金を出している品種のタイプはアミローゼの含有率が高いもの、単収が安定しているもの、ねばり気の低いものが対象となっている。この対象となるのはおのずとインディカのタイプの長粒種Bとなり、1992年産においては長粒種Bの品種に対し奨励金(1ha当たり200ECU)が支払われている(後述)。しかし、稲作に関してはECに対し大きな影響力をもつ全伊コメ協議会(Ente Nazionale Risi)の稲作研究所(Centro di Ricerche sul Riso = Rice Research Center)としては、L202は低温に弱いとして新品種であるDedaloを新たに提案している⁴⁾。

- 1) スペインのセビリア地方には約3万5千ヘクタールに及ぶスペインでは最大の面積の水田地帯があるが水不足問題は深刻で、近年でも1989年は約3分の1、1992年が半分の作付面積にとどまり、1993年はわずか2千ヘクタールの作付けと、壊滅的な状況である。このため水供給体制の整備が急務となっている(Ferran; 丸山; Herruzo)。
- 2) この実質買入れ価格はアメリカ合衆国のコメ政策の目標価格(Target price)に相当するとみてよいであろう。米国の1993年の目標価格はモミ100ポンド当たり、10ドル71セントなので、モミ1トン当たり、203.58ECU (US \$ = 0.863ECU)である。よって、インディカ米でみた場合、ECの農家の最低保証価格は米国のそれに比べ40%余り高いとみることができる(Pollack and Lynch)。
- 3) 一方、アメリカの定義は註一表1の通りである。これらの定義を比較すると、アメリカの長粒種は6.6ミリを上回る長さとなっており、ECの6.0ミリより10%ほど長くなっている。また、アメリカではECのような長粒種の中での区別(AとB)はない。
- 4) 生産されている品種はこの地域の気象に適しているジャポニカ米であるが、問題なのは生産量の少ないインディカ米が北欧を中心に好まれる点である。そこで、全伊コメ協議会の稲作研究所を中心に12年前にインディカ米の品種の開発をスタートした。一方、5年前、スペインではカリフォルニア州で開発されたインディカ米の品種L202が導入された。イタリアでは1988年からこ

註一表1 米国におけるコメの長・中・短種の定義

種類	タテの長さ	タテとヨコ比
長粒種	6.6ミリ<長≤7.5ミリ	～ 長>3.0
中粒種	5.5ミリ<中≤6.6ミリ	2.1<中≤3.0
短粒種	短≤5.5ミリ以下	短≤2.1

資料) 米国農務省 (USDA) : *Rice in the United States*
: *Varieties and Production*, Agriculture Hand-
book No.289, Agricultural Research Service,
June 1973, pp.38-40.

のL202の生産が始まった。は種時期の低温気候のため生産は簡単でなく、単収はジャポニカ米より低い、比較的良好である。また、EC政府もインディカ米に対しては奨励金を出し、増産対策を押し進めている。イタリアでは現在全体の約10%に当たる2万haでこのL202が作付けされている。イタリアの法律ではEC域外から新しい品種を導入して生産することは禁じられている。L202については、まずスペインが導入し、スペインでタイボネット (Thaibonnet) という新品種として登録された。よって、EC域内で認められたことになり、イタリアでもこれを抵抗なく導入したという経過がある。ただ、イタリアで生産された生産量のうち、40%が国内で消費され、残る60%が国外へ輸出されている。そして、輸出用にはインディカ米が好まれる。こうしてみると、インディカ米の作付面積は10%に増大してきたわけではあるが、今後も増産が予想される。

3 市場価格

(1) 生産者価格

EC域内の生産者価格について最大の生産国であるイタリアの状況をみることにしたい。イタリアのコメの取り引きは全伊コメ協議会に必ず報告しなければならないことになっているが、そのコメ協議会に報告のあった資料によると、収穫が始まって間もない9月上旬にモルターラ市の市庁舎前で開かれた市場で、当日成立したコメの売買価格は表4の通りである。

1993/94年度初当の価格は前年度同期に比べ2割ほど高いが、これはイタリアのリラのレートがECのECUに対し下がったためである。しかし、イタリアのコメ農家にとっては価格が上昇しているわけであり、当面はこの価格上昇に活気がわいている。この中で Vialone Nano が他の品種に比べ突出した高値となっている。他は長粒種が中・短粒種に比べ比較的高く、最低でも実質買入れ価格のレベルに落ち着いている。

なお、1993/94年度の政府買入れ価格 (政府市場介入価格) は1トン当たり309.60ECU、つまり67,077.32リラ (1 ECU = 2,166.58リラ) である。また、実質買入れ価格は長粒種Bが291.03ECU、または630,539.78リラ、そしてその他が278.64ECU または603,695.85リラである。

ところでイタリアのN農家が1992年に作付けした品種、単収及び価格は表7にみる通りである。この表でみると価格は1992年10月から1993年2月までに18%から45%の値上がりを見せて

表4 イタリアにおけるモミ1トン当たりの市場取引価格
(1993年9月10日, モルターラ市で)

品 種	最低価格	最高価格	玄米60kg 当たり円 ¹	
			最低価格	最高価格
短粒種				
Cripto	550,000	570,000	2,710	2,809
中粒種				
Lido	550,000	570,000	2,710	2,809
Vialone Nano	750,000	770,000	3,696	3,794
Loto	560,000	600,000	2,760	2,957
長粒種				
Ariete	600,000	630,000	2,957	3,104
Baldo	600,000	630,000	2,957	3,104
Arborio-Volano	620,000	670,000	3,055	3,302

¹玄米60kg当たり価格はモミから玄米の率を80%, 1円=15.022リラとし, モミすり代は無視して算出した。但し, モミすりと精米のコストはモミ1トンに対し2万リラ(1,330円)ほどである。資料: 全伊コメ協議会。

表5 イタリアのN農家の水田における品種, 単収及び販売価格(1992年産)

品種	面積, ha	収量, トン/ha (モミ)	価格/t, (モミ)		価格の上昇率, %
			1992年10月	1993年2月	
L202	40	6.3	550,000	800,000	45%
Baldo	7	6.1	600,000	800,000	33%
Balilla	25	6.7	520,000	650,000	25%
Elio	11	7.0	500,000	640,000	28%
Loto	7	6.1	550,000	650,000	18%
Veneria	10	7.5	550,000	650,000	18%
Lido	30	7.5	530,000	650,000	23%

資料: N農家の事務所, 1993年2月17日。

いる。これはリラがドイツのマルクに対し, 約25%安くなったことも原因してるが, L202が比較的大きな値上がりを見せている。このほかL202には検定済種子(Certified Seeds)に対する補助金として生産奨励金が1992年は1ヘクタール当たり200ECU支払われている⁵⁾。しかし, このN農家はL202に仮に奨励金がなかったとしても, L202を生産するという。現に, 粗生産額でみると, Lidoのような高収量の品種に比べてもL202の方が多⁶⁾い。

(2) 消費者価格

EC 諸国においては国によって消費するコメの種類が異なっている。北欧では長粒種Bのコメが好まれ、南部では長粒種A、または中・短粒種が好まれる。また、1人当たり年間消費量も南部（イタリア、スペイン、ポルトガル、ギリシャ）は5kgを越えているが、北部（フランス、ドイツ、デンマーク、英国など）はそれを大きく下回っている。よって、スーパー等におけるパックのサイズも北欧は小さく、南欧は大きい。

イタリアのコメ生産地モルターラ市におけるコメの小売り価格は表6のようになっている。1993年初めにオープンしたというこの大型のスーパーでコメは売り場の一角をかなり大きく占めていた。価格は日本円にして10kg当たり、高いもので2,500円前後である。安いもので2,000円弱といったところである。また、インディカ系の長粒種Bはなく、並べてあるのはジャポニカ系のものだけであった。一方、北欧のデンマークはヨーロッパの中でも特に自然食品に対する意識が高い国である。よって、スーパーにおいても玄米や無農薬のコメが目につく。あるスーパーではコメは自然食品のコーナーに置かれており、玄米やパーボイルド・ライスだけで、一般の精米は販売されていなかった。また、マンチェスター市内にあるインド人系のマーケットでは大型の袋入りでも販売されており、価格は表7の通りである。

ところで日本人の好みに合うコメはパックのサイズの大小によって単価が異なるが、10kg当たり3千円前後で一般的に高い。これはアメリカにおける価格に比べ2倍ちかい価格である。ジュネーブの日本食品店、U店では、コメの価格は1992年2月の時点ではそれまでの1年間はほぼ横ばいで、中国系の中卸し人から卸している。ジュネーブには日本人が1,000人余り在住しているが、この店では1週間にレストラン向けが700kg、家庭用に100kgと合計約800kgほ

表6 イタリア・モルターラ市内におけるコメの小売り価格¹
(1993年2月17日)

種類	品種	重量	価格	10kg当り/円
Consilia Riso	Padano	1 kg	2,180Lr	1,700円
〃	Arbolio	1 kg	3,140Lr	2,450円
〃	Roma	1 kg	2,870Lr	2,240円
〃	Ribe	1 kg	2,340Lr	1,830円
〃 (パーボイルド)	Ribe	1 kg	2,680Lr	2,090円
Scotti Riso	Arbolio	5 kg	15,980Lr	2,498円
〃	Padano	2 kg	4,980Lr	1,945円
〃	〃	5 kg	11,980Lr	1,872円
〃	Baldo	2 kg	5,480Lr	2,140円
〃	Roma	5 kg	13,980Lr	2,184円
〃	Arbolio	2 kg	6,480Lr	2,530円

¹為替レートは日本円=12.8Lr。モルターラ市内の大型スーパーで。

表7 マンチェスター市内（インド人系のマーケット）におけるコメの小売り価格^{1,2}（1993年2月26日）

種 類	重量	価格	10Kg 当り日本円
Kokuho Rose	5Lbs	£ 4.20	3,478円
〃	25Lbs	£ 16.50	2,733円
Tolly Boy Long Grain (パーボイルド)	2 kg	£ 2.75	2,585円
Tolly Boy Basmati Rice	2 kg	£ 4.50	4,230円
〃	22kg	£ 29.50	2,521円
Tolly Boy Long Grain	2 kg	£ 2.50	2,350円
Tilda Long Grain Rice	20kg	£ 15.35	1,443円
White Pearl Pakistani Basmati Rice	20kg	£ 28.50	2,679円
Surya Basmati Rice (インド産, 英国にて精米及びパッキング)	10kg	£ 15.50	2,914円
Guru Basmati Rice (インド産, 英国にて精米及びパッキング)	20kg	£ 28.50	2,679円
Al Hilal Pakistani Basmati Rice	20kg	£ 19.75	1,857円
Tilda Basmati Rice (インド産)	20kg	£ 33.50	3,149円
Dragon Thai Fragrant Rice	10kg	£ 10.90	2,049円
Swad Basmati Rice	20kg	£ 23.50	2,209円

¹ 為替レートは£1.00=188円。

² Tolly Boy のブランドはアメリカ産米を使用, イギリスで精米及びパッキングをしている。

どの販売量がある。また、ジュネーブのもう一つの日本食品店、N店、ではスペインで生産されている日本産品種米「みのり」は1 kg 当り1.2ポンドで仕入れている。よって2 kg 入り「みのり」の場合は小売りマージンが45.8%ということになる。この店では毎月、25ポンド入りが250袋、10ポンド入りが250袋、5ポンド入りが400袋の割合で売れている。お客のほとんどが日本人である。

パリ市内における日系品種米は、パリ市内でのコメの取扱量が最も多いとされるK店では横浜の本店を経由して、加州から日系品種を取り入れている。一般消費者用には加州の「Kokuho Rose」のみを5, 10, 25ポンドの袋詰めで販売。このK店ではコメはドル建てで仕入れているため、他の日本産品とは異なり、円高の影響は受けていない。このため、1993年9月の時点ではそれまでの1年間は値上げしてはいない。加州産の新米は11月に入荷の予定である。K店での販売量は一般消費者向けが月に5トンから6トン、レストラン用が毎月、約20トンの計25~6トンが販売されている。これはパリ市内の日系人消費量の7割（K店による見積）を占めている⁷⁾。

一方、ロンドン郊外に1993年9月に開店したばかりのY店では加州産の「錦（Nishiki）」米を主流に販売している。表8にみるように米国産コシヒカリ等も販売している。また、スペイン産の「みのり」についても今年産の新米から取り扱う予定である。ロンドン地域においては

表8 ロンドン市郊外のY店におけるコメの価格¹ (1993年9月26日)

品目	重量	価格, £ (ポンド)	10kg 当たり, 円
秋田おとめ (米国産)	5 kg	19.90	6,368
Kokuho Rose (赤)	25Lb	19.80	2,794
〃 (〃)	10Lb	8.50	2,998
Kokuho Rice (黄)	〃	17.80	2,511
田牧米	20Lb	16.00	2,822
〃	5 Lb	4.30	3,034
しらきく米	10kg	17.50	2,800
錦 (Nishiki)	10kg	22.00	3,520
〃	2.5kg	5.70	3,648
〃	10Lb	10.40	3,668
Uncle Ben's (長粒種)	2 kg	5.45	4,360
〃	375g	1.15	4,907
Basmati (インド産)	1 kg	2.49	3,984
コシヒカリ USA (米国産)	5 kg	19.90	6,368

¹「コシヒカリ USA」はシンガポールを経由して輸入している。
為替レートは£1.00=160円。

どの卸業者も小売り店が希望すればどこにでも卸すという態度を示している。

このY店の小売り価格でみるとコメの価格はかなり高く、特に、日本産品種米の「秋田おとめ」(アキタコマチ)や「コシヒカリ USA」(コシヒカリ)が他のジャポニカ米(「Kokuho Rose」「田牧米」「錦」などに比べ2倍の高値で販売されている。

- 5) この奨励金は1988年産から1ヘクタール当たり300ECUでスタートしたが、その後徐々に減額され、1992年産が200ECU、1993年産に対しては98.71ECUに減額された。
- 6) ところでこの地域の農家販売価格は収穫期の10月には下がり、その後徐々に上昇してくる。貯蔵施設のない農家はその安い時期に多くを販売することになる。N農家は通常、2月までに生産量の約半分を売却する。8月までには全生産量を販売してしまう。
- 7) 同じパリ市内にある日系デパートのD店では加州産とスペイン産を販売している。同じ加州産でも、K店とはブランド名の異なるものを販売している。この両店におけるジャポニカ米の価格を比較してみると、加州産米についてはD店がK店より7%余り高い。また、D店の「みのり」はK店の「Kokuho Rose」に比べ20%余り高く販売されている。

4 おわりに

ECのコメの生産量は年間約150万トン前後(精米換算)と、世界の生産量から見るとわずかである。しかし、積極的な輸出対策をとる一方で、品質によっては輸入もするという体質を備えており、コメの国際貿易の観点からは軽視できない地域である。近年ではスペインの一部

地域において水不足により生産量の不安定性は多少あるものの、量的には自給も手の届くところに来ており、今後は域内の需要に合った品質米の生産増大が進められることになろう。ところで、政府の買入れ価格は近年はECU貨幣では値下げの方向に動いているが、主要生産国のイタリア及びスペインでは自国の為替レートが切り下がっているため、生産者にとっては値上げの状況になっている。このため、なおも増産意欲が高い。

一方では、ガットのウルグアイラウンドでみられるように各国とも補助金は徐々に切り下げられる傾向にある。また、国際価格に比べ域内の小売り価格は域内の農業保護政策のため高くなっており、消費者からの現政策に対する支持もこのまま続くかどうか疑問である。こうした中、域内のコメ農家にとっても今後はコストの切り下げが重大な課題になってこよう。

参 考 文 献

- [1] Ekelmans, Jeanine: *The New Regulation of the Agricultural Markets*, Vademecum, Commission of the European Communities, Luxembourg (Office for Official Publications of the European Communities), 1993. pp.17-20.
- [2] Peterson, E. Wesley F.: *Agricultural Policy in the European Community*, The Texas Agricultural Experiment Station, The Texas A&M University System, College Station, Texas, 1985.
- [3] Brown, Earl, Wesley Peterson and Jeffrey Charlesworth: *European Community; Know Your Market Series*, The University of Maryland, Department of Agricultural Resource Economics, College Park, 1986.
- [4] Harris, Simon, Alan Swinbank, and Guy Wilkinson: *The Food and Farm Policies of the European Community*, John Wiley & Sons, pp.179-181.
- [5] 小田紘一郎：『変わりゆく世界の米事情』, 全国食糧振興会叢書「一食糧と農業」34, pp.181-195.
- [6] Ferran, Joaquin (EC委員会のコメ部会)：ブリュッセルのEC本部で聞き取り調査, 1993年9月24日.
- [7] Pollack, Susan L. and Lori Lynch: *Provisions of the Food Agriculture Conservation and Trade Act of 1990*, United States Department of Agriculture, Economic Research Service, Agriculture Information Bulletin Number 624, Washington, D.C., 1991.
- [8] 丸山幸夫：『欧州諸国における水稻の低コスト・高品質化に関する機械化技術開発試験研究動向調査』農林水産技術会議事務局企画調査課, 海外調査資料11, 1992年.
- [9] EC Commission: *Ecomission Regulation (EEC) No 2091/93*, Official Journal of the European Communities, July 30, 1993, pp. No L 190/10-190/11.
- [10] Herruzo, A. Casimiro: 1993年2月及び同年9月における聞き取り調査, コルドバ大学 (Universidad de Cordoba) で.
- [11] 米国農務省 (USDA) : *Rice in the United States: Varieties and Production*, Agriculture Handbook No.289, United States Department of Agriculture, Agricultural Research Service, June 1973, pp.38-40.